
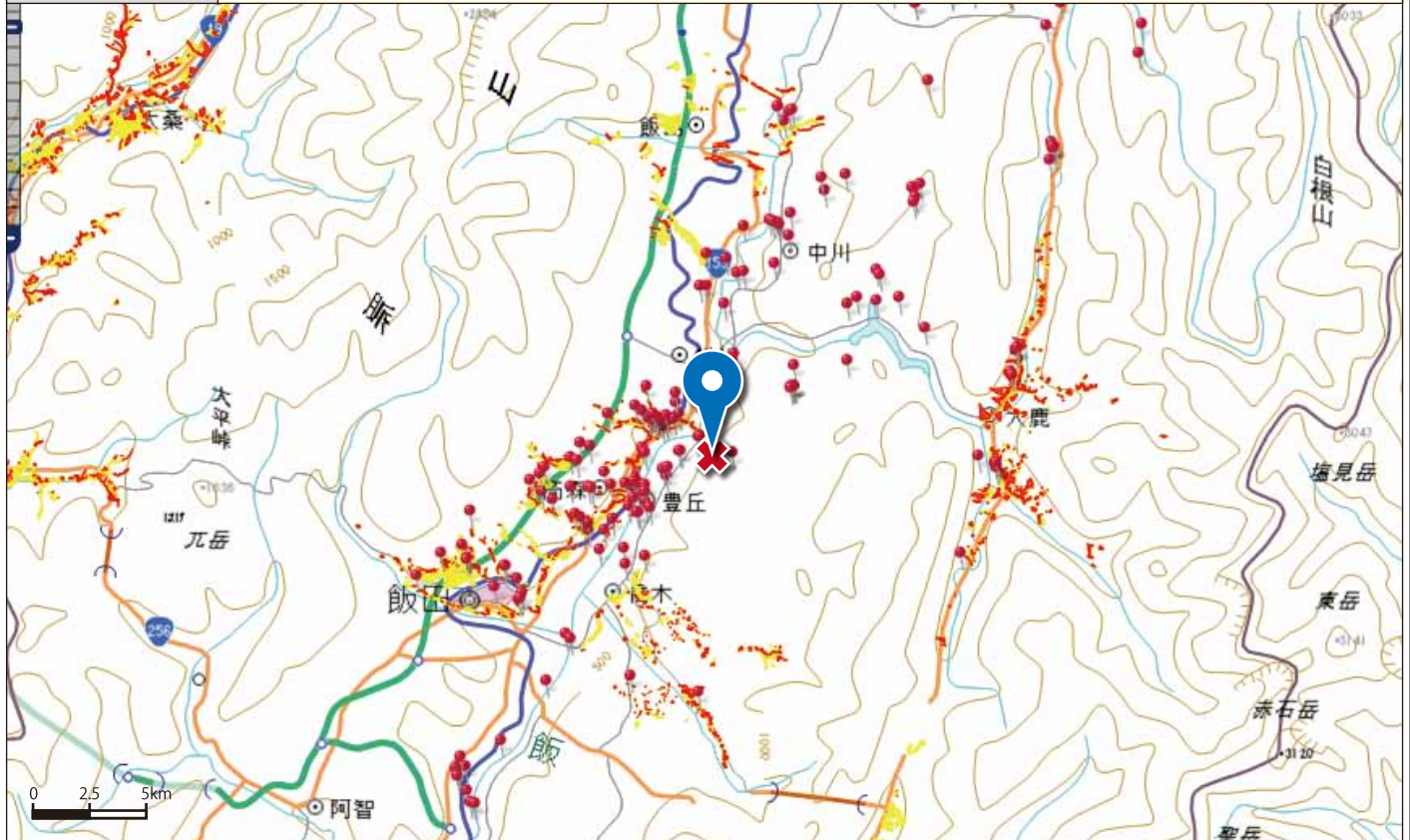


No.	16-2-3	場所	豊丘村 河野本沢流域	次世代への継承キーワード	諏訪市 岡谷市 辰野町 箕輪町 南箕輪村 伊那市 高遠町 長谷村 宮田村 駒ヶ根市 飯島町 中川村 大鹿村 松川町 高森町 豊丘村 喬木村 上村 飯田市 南信濃村 清内路村 阿智村 浪合村 平谷村 下條村 阿南町 売木村 天龍村
名称	豊丘村河野本沢流域の森林の荒廃状況			前兆現象	
災害現象	斜面崩壊			河川 間沢川	
補足事項				支流	
概要	<p>本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。</p> <p>中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。</p> <p>●体験談：災害当時、豊岡村豊岡南小学校4年生</p> <p>雨がものすごい勢でふり出した。家の前にひばりがひいた(地われがした)。 (中略) わたしとひかるは、ただ見て、ふるえてるだけだ。電気はつかない。だから外にいるよりほかしかたがない。畑のこんにゃくは、見ているうちにバタバタとこけていく。(倒れていく)池もだんだんうずまってしまふ。わたしは、何かしたくてもすることがなくただ二人で、ぼんやりと立って雨のふるのを見ているだけだ。その時、うらの山が崩れた。(中略) (「濁流の子」p.35)</p>				
記録	 <p>災害当時の豊丘村河野本沢流域の森林の荒廃状況</p>				
出典	「語り継ぐ災害の記録」p.247/「濁流の子」p.35				
備考	概要欄の（ ）は編者が補足説明したものです。				

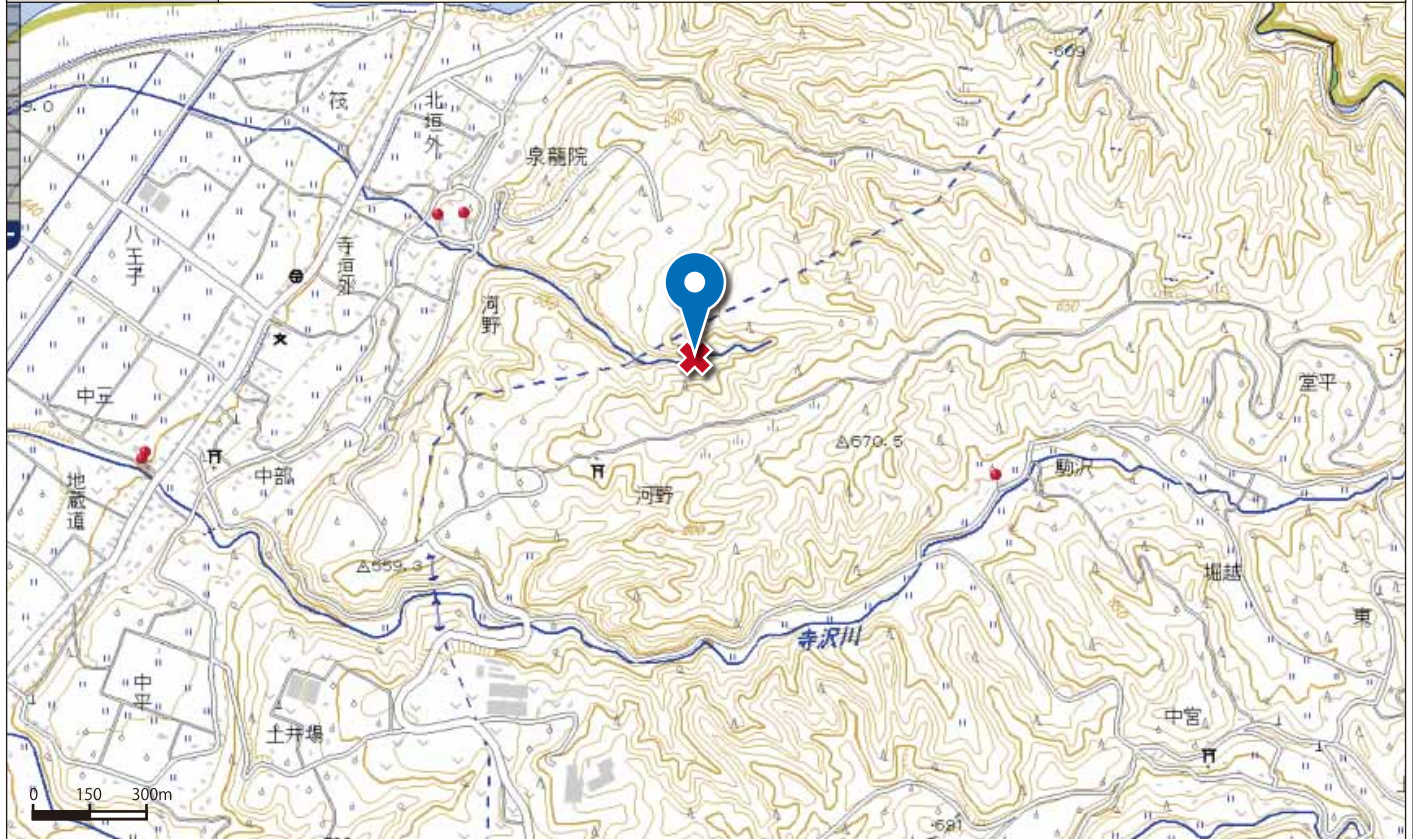
No.	16-2-3	場所	豊丘村 河野本沢流域	緯度	35.564411
-----	--------	----	------------	----	-----------

名称	豊丘村河野本沢流域の森林の荒廃状況	経度	137.920861
----	-------------------	----	------------

地図	広域図
----	-----



地図	詳細図
----	-----



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。
----	---